HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	電子レセプト分析によるHelicobacter pylori除菌と胃癌に関する正確な状況調査［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	津田, 桃子
Description	配架番号：2394
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(医学)
Dissertation Number	甲第13015号
Issue Date	2018-03-22
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/70308
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Momoko_Tsuda_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称　　博士（医　学）　　氏 名　津田　桃子

	主査	教授　渥美　達也
審査担当者	副査	教授　玉腰　暁子
	副査	教授　武富　紹信
	副査	教授　有川　二郎

学 位 論 文 題 名

電子レセプト分析による *Helicobacter pylori* 除菌と胃癌に関する正確な状況調査
(An effective method using E-claim data to accurately investigate the status around *Helicobacter pylori* eradication and gastric cancer)

申請者は，電子レセプト分析による *Helicobacter pylori*（以下 *H. pylori*）除菌と胃癌に関する正確な状況調査について検討した．2013 年 2 月の *H. pylori* 除菌保険適応拡大前後の除菌治療，胃癌の内視鏡治療，外科手術の実態を調査すべく，National Database（以下 NDB），北海道の国民健康保険，後期高齢者医療制度の電子レセプト（北海道レセプトデータベース）を用いた．北海道レセプトデータベースからは *H. pylori* 除菌保険適用拡大後の除菌件数の増加を確認できた．有意差はないが内視鏡治療数が増加傾向，外科手術数が減少傾向を示したことも示唆された．NDB の検討では我が国の除菌治療や胃癌治療の規模が把握できた．

審査にあたり，まず副査の有川教授から本研究のデータ抽出方法について質問があり，共同研究者の東北大学医療管理学講座教授の藤森研司先生に抽出条件を伝え，情報サーバからのデータ抽出は依頼した，と回答した．男女比の検討はしたか，と質問があり，主目的は *H. pylori* 除菌治療，胃癌の内視鏡治療，外科手術の実数把握であったため，男女比よりも各項目の総数に重きをおいた，と回答した．*H. pylori* 未感染者からの胃癌の発症を検討したかと質問があり，本検討では，*H. pylori* 未感染者の経過は検討していない，と回答した．学位論文中に「除菌」を含む用語が「除菌数」「除菌症例」など統一されていないことを指摘され，論文中の用語を見直し統一する，と回答した．除菌成功率について質問があり，除菌治療薬にもよるが文献的には 70-90%の症例で除菌が成功する，と回答した．保険適応拡大後の除菌件数増加を事前に予測した数値はなかったのか，あればその予測値と今回の結果を比較したか，と質問があり，予測値はない，と回答した．副査である武富教授からは，本研究は北海道の国民健康保険・後期高齢者医療制度の被保険者が対象であり，社会的背景が偏った集団と想定されるが，全被保険者を対象とした場合に予想される結果は，と質問があり，除菌治療は実臨床では生産年齢で多く施行するが，本検討では生

産年齢全体の約 1/4 しか解析されていない点，また残る 3/4 の生産年齢を含む他の被保険者では国民健康保険と比してより健康診断が普及している点を述べ，これらから全被保険者を対象にすることで，更なる除菌件数の増加が予想される，と回答した．ビッグデータを扱い更なる検討は可能か，と質問があり，北海道データベースでは患者連結を行い，より詳細な検討が可能であったため，この手法を NDB に応用し，今後全国規模での把握を進めたいと考えている，と回答した．ビッグデータを扱うための倫理委員会の承認についてはどう解決したのか，と質問があり，本研究は厚生労働省が法律に基づいて収集した匿名化データを使用して研究を行っているため，北海大学病院の倫理委員会の承認は不要であった，と回答した．胃癌の治療件数集計の際に，腹腔鏡手術と開腹手術を別にした理由は何か，と質問があり，胃癌治療ガイドラインを参照し，腹腔鏡手術は早期胃癌に行われ，開腹手術はより進行した胃癌に施行されるという認識で，分けて集計した，と回答した．副査である玉腰教授からは，世界人口に占める *H. pylori* 感染の最新感染割合は，と質問があり，現時点の感染割合が不明であったため，文献検索し学位論文に追記する，と回答した．学位論文中の結果と考察の区別が不十分な点，joinpoint 解析を含めた検定方法の記載をより具体的にすべき点を指摘され，学位論文を修正・追記する，と回答した．主査の渥美教授からは，本研究の目的を学位論文にわかりやすく明記するよう，指摘され，本研究は電子レセプトを用いて 2013 年 2 月の *H. pylori* 除菌の保険適応拡大前後の除菌治療の実態，胃癌の内視鏡治療，外科手術の実態を把握することである点を強調し，学位論文に明記する，と回答した．また，除菌治療が医療経済にどう影響すると考えるか，と質問され，今後の経過で除菌件数の増加とそれによる胃癌死亡者数の減少を継続して評価し，医療経済に対する効果の検討をしていきたい，と回答した．

この論文は，電子レセプト分析による *H. pylori* 除菌保険適応拡大前後の除菌治療，胃癌の内視鏡治療，外科手術の実態を調査した点において高く評価され，今後の NDB を用いた検討に応用することで全国規模での *H. pylori* 除菌と胃癌に関する正確な状況調査が期待される．

審査員一同は，これらの成果を高く評価し，大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ，申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した．